

# 道 徳 科

## 道徳的価値の理解を基に、人間の生き方について考えを深める授業づくり

**授業づくりのポイント** ※―は小学校、( )は中学校 数字は授業例と対応

- |  |  |
|--|--|
| <p>① ねらいとする道徳的価値や児童生徒の実態等から、児童生徒に何について考えさせたいのかを教師が明らかにして授業を構想する。</p> <p>② 「価値理解」「人間理解」「他者理解」を促す発問等を取り入れることにより、児童生徒が道徳的価値を理解できるようにする。</p> <p>③ 登場人物の言動を自分に置き換えて考えさせたり、身近な出来事などを想起させたりして、児童生徒が自分との関わりで考えることができるようにする。</p> <p>④ 児童生徒の実態に応じて、座席や板書、発問等を工夫し、他者と対話したり協働したりして</p> | <p>様々な考えに触れる機会を設定することにより、多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>⑤ 児童生徒が自らを振り返ったり、目標を見付けたりする時間を設定することにより、<u>自己</u>(人間としての)生き方について考えを深めることができるようにする。</p> <p>⑥ 児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかという点を重視して学習状況を見取り、評価につなげるようにする。</p> |
|--|--|

### 話し合いを通して道徳的価値について多面的・多角的に考えることができる授業例

中学校第3学年 主題名「自己と向き合い よりよく生きる喜び」〔よりよく生きる喜びD-(22)〕  
 教材名 「二人の弟子」 (「私たちの道徳」 文部科学省)

〈あらすじ〉 智行と道信は上人の寺で修行をしていた。二人は本山の修行に行き、智行は厳しい修行に耐え立派な僧侶になるが、道信は途中で逃げ出しゆくえ知れずになった。十年後、道信がやせこけた姿で現れた。再度修行を求める道信を上人は許すが、智行は許せなかった。

**【生徒の実態(・)と教師の願い(☆)】**

・ 同じ内容項目で行った授業から、自分に自信がもてなかったり、劣等感をもったりし、自分のよさを生かしていない生徒が多くいることが分かった。  
 ☆ 心の弱さは誰にでもあることに気付かせ、それを克服し、自分のよさを生かして成長しようとする人間の強さについて考えることで、充実した生き方につなげてほしい。

**【ねらい】**

自分の弱さや醜さに向き合い、それらを克服しようとする強さや気高さに気付くことで、人間として生きることの喜びを見いだそうとする態度を育てる。

内容項目の指導内容に基づいて生徒の実態等を踏まえ、ねらいを設定します。 ①

**学習活動**

(◎◎は主な発問例)

〈展開の場面〉

教材を読み、話し合う。

◎戻ってきた道信を見て、智行はどう思ったでしょう。

◎道信を許すことができない智行を、あなたはどのように思いますか。

◎智行はこの後どのような生き方をしていくでしょうか。

〈終末の場面〉

本時の学習を基に自己を振り返り、考えたことを友達と交流する。(学習シートやICT端末等に記録する。)

S1: 人に優しく接していくと思います。 [思いやり]  
 S2: 人を責めたりしないで理解し、受け入れようと思います。 [寛容]

T: 人はそのようにすぐに変わるのでしょうか?

S3: すぐには無理かもしれませんが、このままではいけないと思い、変わろうとするのではないのでしょうか。

T: このままではいけないと思うのは、どのような気持ちからでしょう。

S1: 失敗などに目を向け、反省する気持ちからだと思います。僕も同じような経験があります。 [よりよく生きる]

S4: 自分の弱い心と向き合い、克服し、自分が人として成長したい気持ちもあると思います。 [よりよく生きる]

T: 今、「自分の弱い心と向き合い」とありましたが、自分と向き合って生きるとはどういうことでしょうか。

S2: 自分の心の弱さを自覚し、どうすれば克服できるかを考えて努力していくことだと思います。 [よりよく生きる]

S3: 僕は人と比べて落ち込んだ経験から、他の人と比較するのではなく、自分のよさにも目を向け、自信をもって生きていくことだと思います。 [よりよく生きる]

T: 今日の学習を踏まえて自分を見つめ、これからの自分について考えたことを友達に紹介しましょう。

S1: 努力だけが自分の成長のために必要だと思っていましたが、今日の話合いなどを通して、自分の心の弱さや醜さに向き合うことも大切だと気付きました。

S4: 私は、心の弱さを少しでも克服し、よさを生かすように意識して生活することで自分に自信がもてると感じたので、今後実行していきたいと思いました。

内容項目に含まれる【道徳的諸価値】に関わる考えを想定して発問や板書を行うことにより、道徳的価値に向き合い、多面的・多角的に考えることができるようになります。 ④

生徒の発言を生かして切り返しの発問や追発問を行うことで、生徒が道徳的価値の理解を深め、自分との関わりで考えることができるようになります。 ②③

他者と交流することを通して、自己の変容や新たな学びに気付くことができるようになります。 ⑤

ICT端末等を活用し、振り返りを計画的に記録に残すことで、生徒の実態や学習状況を把握でき、評価にも役立てることができま す。 ⑥

**【評価の視点】** 登場人物の姿にこれまでの自分を重ね、心の弱さや醜さに向き合い克服しようとする大切さや、自分のよさを生かして過ごすことのすばらしさを実感し、これからよりよく生きていくために自分はどのようにすべきかについて考えている。